

未来の 医療の ために

iPS細胞を活かした治療開発と将来展望

「臨床研究」「治験」と聞いて、皆さんはどんなイメージを抱かれますか？怖さや不安、抵抗を感じる方も多かもしれません。しかしながら、臨床研究や治験に協力してくれる患者さんがいるからこそ、医療はここまで発展することができました。中でも、難病・希少疾患の場合は、患者数が少ないゆえに情報も集まりにくく、治療法の開発も進みにくのが現状です。アルツハイマー病は、近年の高齢化に伴い増加の一途をたどる認知症の最も一般的な原因ですが、いまだに十分な治療法は見つかっていません。しかしながら、これまでに積み重ねられた研究により、病気の進行を遅らせるために有効な物質が見つかる等、少しずつ歩みを進めています。本講座では、難病患者の方の現在の医療に対する実際の声を聞きながら、患者・家族による臨床研究・治験情報へのアクセス方法とその情報を得ることの重要性について知り、治験による難病や希少疾患の治療開発と今後の展望等についてお伝えします。



日時

1.19²⁰²⁵ [日]



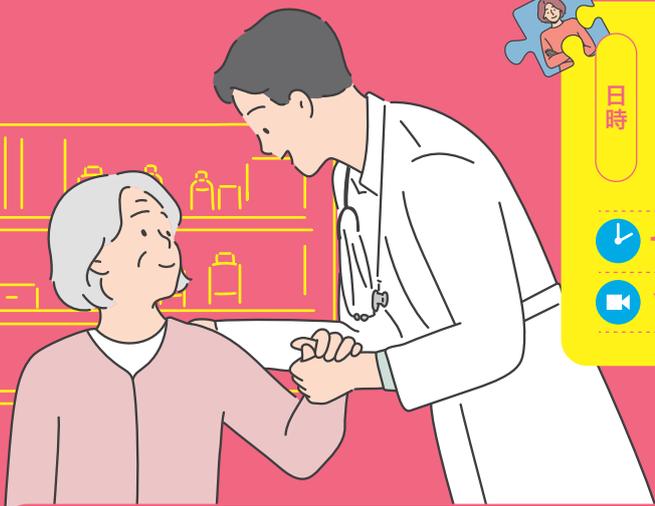
14:00~16:00



YouTubeによるオンライン配信

申込

詳細をご確認の上
お申し込みください。



プログラム

開会の挨拶 京都大学医学部附属病院 病院長 高折晃史

第1部

難病患者からみた
現在の医療
～膠原病患者の立場から～

全国膠原病友の会常務理事
日本難病・疾病団体協議会 理事
大黒宏司

第2部

患者・家族が病気や症状を
もっと知るためには

ASrid理事長
臨床試験にみんなが
アクセスしやすい社会を創る会
西村由希子

第3部

未来の医療に向けて
～アルツハイマー病に対する
iPS細胞を用いた治療開発～

京都大学iPS細胞研究所(CiRA)
坂野晴彦

第4部

未来の医療のために私たちができること

パネルディスカッション

パネリスト

全国膠原病友の会常務理事、
日本難病・疾病団体協議会 理事
大黒宏司

ASrid理事長
臨床試験にみんなが
アクセスしやすい社会を創る会
西村由希子

京都大学iPS細胞研究所(CiRA)
坂野晴彦

ファシリテーター

iACT 戦略・広報室 室長
堀松高博

閉会の挨拶 iACT 機構長 波多野悦朗

総合司会 | iACT 戦略・広報室 長野楓

主催: 京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構(iACT)

後援: 厚生労働省、京都府、京都市、公益社団法人 日本医師会、京都新聞、KBS京都、
一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会(JPA)、がん情報サイト「オンコロ」、
難病・希少疾患 情報サイト「RareS. (レアス)」、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)